

〈日本 SPF 豚研究会誌〉

「All about SWINE」投稿のお願い

SPF 豚の普及に役立つ調査・研究論文および防疫、飼養、流通、消費等に関する解説・資料等の原稿を募集しております。下記要領にご留意の上、ご投稿下さい。

1. 原稿は原則としてワープロを使用してA 4用紙に横書きで作成して下さい。手書きの場合は、400字詰原稿用紙を使用して下さい。
2. 原稿の1枚目には表題（英文表題も併記）、投稿者名（ローマ字表記も併記）、所属機関名（郵便番号および住所）を記して下さい。2枚目以降の記述形式は特に定めませんが、資料等を引用した場合は末尾に「参考資料」または「引用文献」の項目を設けて下さい。
3. 表は原則として縦罫線を使用せず簡潔なものとし、また図はそのまま印刷が可能なように白色紙または方眼紙に黒色で記入して下さい。写真は原寸印刷が可能なように原則として横7cm程度、縦7cm以下として下さい。
4. 原稿の送付先は「〒501-1193 岐阜市柳戸1-1 岐阜大学大学院連合獣医学研究科 応用獣医学連合講座 浅井鉄夫」までお願いします。

〔編集後記〕

昨年9月に岐阜県の養豚場で豚コレラが発生し、その後に野生いのししの感染が確認されて1年が過ぎようとしている。

感染拡大には野生いのししが関係しているのは周知のことであるが、農場への侵入には感染動物の直接的な関与の他、人・車両などにより衛生管理区域内へ運び込まれることが大きな原因となる。

9月5日に開催された日本SPF豚協会の50周年記念セミナーに参加した。就職したての約30年前、豚胸膜肺炎での大量死（1週間で300頭）やオーエスキー病の初感染での一斉流産が発生するなどを目の当たりにし、その後、豚コレラと豚丹毒のコンバインワクチンで豚丹毒の皮膚炎や関節炎が問題となってワクチンの接種時期を見直したり、SPF豚のコンベ農場への導入ではグレースー病に対応したりしたことを思い出しながら、セミナーを拝聴した。

これまで、色々な問題に直面しながら、問題を解決してきた。明けない夜はないと信じている。

「All about SWINE」

第55号

2019年9月発行 定価1,500円

発行者 小林 秀 樹

編集者 浅 井 鉄 夫

発行所 日本SPF豚研究会

事務局 (株)伊藤忠飼料研究所

予防衛生チーム内

〒325-0103

栃木県那須塩原市青木919

Tel : 0287 (64) 3652

Fax : 0287 (63) 8384